

▶▶ コートジボワール通信

安倍総理の訪問を含む コートジボワールの 政治・経済情勢 —— 復興への道のり

在コートジボワール日本国大使館
特命全権大使

井上 進 *Susumu Inoue*



はじめに

コートジボワールと聞いても馴染みのない方でも、「象牙海岸国」と言えばどこかで聞いたことのある国名だと思ひ当たる方も多いのではないのでしょうか。フランス語の「コートジボワール」は文字通り「象牙の海岸」と言う意味で、14世紀頃、ポルトガルやフランスの商人が訪れて象牙の取引を開始したのがその名の由来と言われています。象はこの国の象徴でもあるのですが、今では中西部の一部の地域を除き、象の姿を見かけることはありません。

コートジボワールは、北緯5～10度の間の熱帯地域に位置し、気温30度を超える高温多湿な気候が1年中続き、雨の多い地域では年間降雨量が3,000ミリを越えるところがあります。面積は約32万平方キロで日本のほぼ85%の広さですが、西部地域の一部を除いては大きな山はなく、国土の多くは平野部となっています。南部は雨量が多く、多くの川や湖沼や広大な熱帯雨林が広がっています。北部に行くにしたがって降雨量は減り、北のマリヤブルキナファソの国境に近い地域はサバンナ地帯となります。南部の海辺に近い経済首都アビジャンはラグューン(潟)の周囲に広がった人口600万を超える大都市です。行政機関の密集する市の中心部のプラトー地区には高層ビルが建ち並んでいますが、住宅の多いココディ地区は豊かな木々の緑と色鮮やかな熱帯の花々に恵まれた美しい地区です。また、コートジボワールは約550キロに及ぶ海岸線にも恵まれ、西部のサンベドロ、ササンドラ、東部のグランバッサムやアッシニは、以前は海辺でバカンスを過ごす多くのヨーロッパ人

で賑わっていたこともあります。そんなコートジボワールは、大地を洗う豊富な水、豊かな緑に覆われた国土、美しい海、そして1年中暑く降り注ぐ太陽に恵まれた国です。

そして、この国のもう一つの大きな特徴は、民族と文化の多様性です。国民は約60の部族から構成され、主に4つの部族グループに分かれており、各々が独自の言語と伝統的な文化を守っています。これは古くからこの国が様々な民族の行き交う十字路であり、周辺諸国の人々との交流が盛んであったことを物語っています。今でも、人口2,030万人(出所:国連人口基金『世界人口白書2013』)のコートジボワールは、周辺国から200万人以上の移民を受け入れ、アフリカ有数の移民受け入れ国となっています。

「象牙の奇跡」から 長い政治危機の時代へ

豊かな自然と大地に恵まれたコートジボワールですが、1960年にフランスの植民地から独立した後の道のりは、決して平坦なものではありませんでした。独立後の初代フェリックス・ウフェ=ボワニ大統領は、国の基礎は農業にあるとして、豊富な地下資源には取って手をつけず、農業立国を目指して広大なプランテーションを開拓し、コーヒー、カカオを中心とした農産品の輸出により、1970年代には「象牙の奇跡」と呼ばれる高度経済成長を実現しました。しかし、1980年代に入ると一次産品価格の下落により経済が停滞し、1993年に33年に亘る長い統治の後にウフェ=ボワニ大統領が逝去すると、民主化を求める動きが加速化するとともに、国民の蓄積した不満が一気に表面化し、これに農地の土地所有権を巡る問題、部族間の対立等も加わり、90年



アビジャン市内の様子 [写真提供: JICA コートジボワール事務所]

代後半から政情は不安定化していきました。

1999年に起きたクーデター事件により、コートジボワールは長い政治危機の時代へと突入します。このクーデターはすぐに鎮圧され、2000年には3代目のバグボ大統領が就任しますが、政情は一向に安定せず、2002年には兵士による武装蜂起が各地で勃発し、反政府勢力による北部地域の実効支配が行われた結果、国は事実上分断される事態に至りました。さらに、2004年には反仏暴動が勃発し、フランス人をはじめとする多くの外国人が国外に脱出することを余儀なくされ、多くの在留邦人もコートジボワールを去りました。その後、2007年3月にはワガドゥグ政治合意が成立し、国家の再統一が実現しますが、民主化に向けての最大の里程碑である大統領選挙は和平プロセスの停滞を理由に再三に亘り延期される状況が続きました。2010年10月になって漸く大統領選挙が実施され、第1回投票で上位2位となった現職のバグボ大統領とウワタラ元首相との間で決戦投票が行われました。その結果、選挙管理委員会はウワタラ候補の当選を発表、これを認めないバグボ陣営との間で内戦状態となりましたが、翌2011年4月にバグボ大統領が拘束され、5月にウワタラ候補が正式に大統領に就任することにより、漸く長年続いた政治危機に終止符が打たれました。

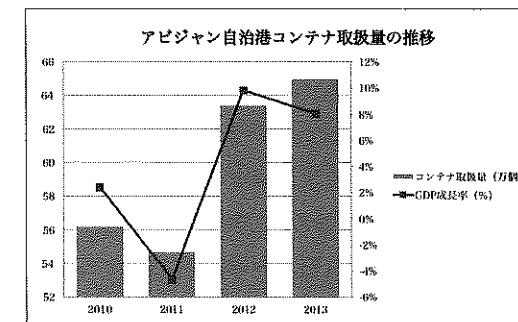
復興への道のりー 「第2の象牙の奇跡」を目指して

内戦終結後2年半を経て、コートジボワールは今、ウワタラ大統領の強い指導力の下、着実に平和と安定、そして復興への道を歩んでいます。長年続いた政治危機や内戦により大きな打撃を受けた行政機能も回復してきていますし、内戦当時に破壊されたインフラも徐々に改善され、政治危機以前の状態に戻りつつあります。内戦直後の2011年にはマイナス4.7%にまで落ち込んだ経済成長は、2012年には9.8%の高い水準に達し、2013年以降も9～10%台の高い成長が見込まれる(コートジボワール政府予測)等、60年代から70年代の「象牙の奇跡」を再現しそうな勢いです。政治的にも、2011年の総選挙と2012年の地方選挙を平和裡に終え、政治的安定に向けての道筋をつけました。

このようにめざましい発展を遂げつつあるコートジボワールに、今外国企業からの熱い視線が注がれています。その理由は、「象牙の奇跡」を実現した高い成長能力への期待だけではなく、西アフリカ地域全体への物流の玄関口とも言えるアビジャン自治港を擁し、この地域の経済の強い牽引役としての地位を回復しつつあるこの国への進出は、CFAフランという共通通貨を導入しているUEMOA(西アフリカ通貨経済同盟)諸国及び3億を超える人口を有するECOWAS(西アフリカ諸国経済共同体)諸国全体の市場を視野に入れることができるからです。貿易についても、2012年以降、主要輸出品目であるカカオ等の第一次産品や農産物加工品を中心として順調な伸びを示しています。また、内戦時代にチュニジアに移転したアフリ

カ開発銀行の本部が今年9月にアビジャンに戻ってくることも明るい材料です。

現在、コートジボワール政府は、2012年から15年にかけての国家開発計画に基づき、国内の民間投資の促進及び外国からの投資の誘致に全力を注いでいます。今年1月末に15年ぶりにアビジャンで開催された投資フォーラムもその一環です。ウワタラ大統領の目標は、2020年には新興国の仲間入りをすることです。もし現在の高い成長率が維持できれば、その目標の達成が一層現実味を帯びてきます。まさに、「第2の象牙の奇跡」の再現です。他方、そのためには乗り越えなければならない壁がいくつかあります。まず第1は、民主主義・グッドガバナンスの確立です。そして、未だ各地に散らばっている旧戦闘員の武装解除・動員解除・再統合(DDR)や治安部門の改革(SSR)の推進も必要です。また、長い間の政治危機の大きな要因の一つである土地所有問題の解決に加え、公正な富の再分配、国民和解への取組も忘れることができません。



(出所)コンテナ取扱量：アビジャン自治港 GDP成長率：IMF Country Report No13/171

安倍総理のコートジボワール訪問

内戦の混乱から漸く立ち直り、復興への道を

歩んでいるコートジボワール、この国を今年1月に安倍総理が訪れました。1960年のコートジボワールの独立以来、日本の総理がこの地を訪れるのは、これが初めてです。また、仏語圏西アフリカの国に総理が訪れるのも今回が最初です。その意味で、今回の総理のコートジボワール訪問は二国間関係のみならず、我が国と西アフリカ諸国との関係の新たなページを開く歴史的な訪問と言えます。

今回のアフリカ諸国歴訪の最初の訪問国としてコートジボワールを訪れた安倍総理をウワタラ大統領は外交儀礼を越えた大変暖かい歓迎で迎えました。両首脳は昨年、TICAD Vの場を含めすでに2回会っていますが、今回の訪問は両首脳の個人的な信頼関係を一層強めるよい機会となりました。

コートジボワールは西アフリカの玄関口であり、我が国がこの地域との関係を深めていく上で重要な役割を果たす国です。また、この地域の中心的位置を占めるこの国の安定と成長は、地域全体の平和と安全に密接に結びついています。このような観点から、安倍総理は首脳会談において、平和と安定への道を歩んでいるウワタラ大統領の努力を支えるために、我が国の支援を本格化させる旨表明するとともに、女性の活力も活かしたコートジボワールの平和構築のために770万ドルの新規支援を準備している旨表明しました。また、日本企業のコートジボワール進出をも視野に入れ、投資促進、産業人材育成、インフラ整備の分野での支援を強化するとともに、この国の産業の基礎である農業、特に国産米の振興についても支援していく方針を明らかにしました。さらに、TICADVにおいて表明されたサヘル支援策の具体策とし



ユニフォーム交換：「写真提供：内閣広報室」

て、避難民支援等のための8,340万ドルの新規支援が打ち出されましたが、今回の訪問に際しては、アビジャンに参集した15カ国中11カ国(コートジボワールを含む)ものECOWAS首脳との懇談も行われたことから、ECOWAS諸国全体との関係強化の面でも大きな成果があったと言えます。ウワタラ大統領よりは、これまでの平和構築、環境分野をはじめとする我が国の支援に対する謝意が述べられるとともに、日本からの投資に対する強い期待が表明されました。

鉱物資源等の天然資源に恵まれ、西アフリカ地域への玄関口でもあるコートジボワールは、我が国にとっても大変魅力的な市場です。今回の総理の訪問を契機として、今後、官民双方において、様々なレベルでのこの国との交流が強化されることが期待されます。

長い間の政治危機の時代を経て、今この国は復興に向けて力強く前進しています。そのコートジボワールを日本としては様々な経済協力を通じて今後とも支援していく考えです。解決すべき課題はまだたくさんありますが、政治的にも経済的にもこの地域の中核的役割を果たしているコートジボワールが国民の叡智を結集し、「第2の象牙の奇跡」を達成することを願って止みません。

(注：本稿は筆者の個人的見解に基づくものです。)